

政治行動論

選挙と投票行動

拓殖大学 政経学部

浅野正彦

1



本日のメニュー

1. 民主主義政治過程の三段階
2. 投票による決定
3. 有権者はなぜ投票するか？
4. 投票の方向性についての諸理論とその問題点

2

2



1. 民主主義政治過程の三段階

① 選挙過程

② 政権成立過程

③ 政策過程

→ 有権者が評価

→ 選挙

3

3



選挙という政治過程

政治過程の中で選挙が持っている意義

有権者が主権を行使できる

→ 民主主義では重要

4

4



投票は最も「有効」な政治参加か？

No

投票は「分け隔てなく」「平等に」参加できる

→ 投票が最も正統な (legitimate) な政治参加

日本の政治参加における特徴

「投票以外の政治参加」率が非常に低いこと

→ 「投票」の重要度が高い

5

5

選挙以外の政治参加

参加経験率

(何度かある+1・2度ある)

選挙で投票する	90.7
選挙に立候補する	1.4
選挙運動を手伝う	30.3
候補者や政党への投票を知人に依頼する	23.1
政治家の後援会員となる	24.1
政党の党员となる	10.2
政党の活動を支援する(献金・党の機関紙の購読)	19.3
政党や政治家の集会に行く	40.3
国や地方の議員に手紙を書いたり、電話をする	8.4
役所に相談する	32.6
請願書に署名する	53.8
デモや集会に参加する	19.0
住民投票で投票する	21.6
地域のボランティア活動や住民運動に参加する	54.6
自治会活動に積極的に関わる	55.1
「パブリックコメント」で意見を提出する	7.8



6

6



2. 投票による決定

制度としての投票・・・フランス革命(1789)以降のこと
それ以前・・・国王や貴族が決めたことを民衆に伝えるだけ
ユダヤ教やキリスト教では投票が早くから採用

サンヘドリン 国会と最高裁判所を兼ねたユダヤ教の最高法院
(意思決定機関)



サンヘドリンにおいてカイアファは、イエスが「神の子キリスト」とであると自称するかどうかを詰問する(「マタイ」26章63節)。イエスがこれを肯定したので(「マルコ」14章62節)、法廷は讀神(とくしん)罪による死刑を宣告。

7

7



「全員一致の議決は無効とする」

その理由：全員が一致して誤っている可能性があるから

わずかでも異論をとる者がいる

→ 異論と対比された上の決定

→ 真の決定

8

8



3. 有権者はなぜ投票するか？

投票の方向性についての諸理論

どの政党・候補者に投票するのかについての意思決定

- ①社会学モデル（コロンビア学派）
 - ・・・公理論からの演繹的分析を忌避
- ②心理学モデル（ミシガン学派）
 - ・・・公理論からの演繹的分析を忌避
- ③経済学モデル（ロチェスター学派）
 - ・・・1970年代に有力なパラダイムの一つになる
- ④歴史学モデル（path dependent）
- ⑤生物学モデル

9

9



①社会学モデル（コロンビア学派）

公理論からの演繹的分析を忌避

社会学・・・社会が a priori に存在した上で
個人が存在する、と考える

社会学的プロフィール → 個人行動

年齢
育ち
性別 → 投票行動

世襲議員
学者出身議員
ジャーナリスト出身議員 → 政治家の行動

10

10



エリー調査 (1940実施)

コロンビア大学の研究者たちが行った世論調査

オハイオ州エリー郡にて

社会的な要因

- ・有権者の経済的地位
- ・住居地域
- ・宗教



大統領選挙での投票

候補者の公約を有権者が評価する

11

11



②心理学モデル (ミシガン学派)

公理論からの演繹的分析を忌避

個人の心理



個人行動

投票行動において強力な影響を持っているもの

== 政党帰属意識

Party Identification
(Party ID)



特定政党への投票

12

12



会社への忠誠心



過労で死ぬ

「行動」は目に見えるが「原因」は目に見えない

なぜ「会社への忠誠心」のような心理状況にあるか？

それを説明するのは社会学的な原因かもしれない

東北の出身？



会社への忠誠心



過労で死ぬ

13

13



ミシガン・モデル

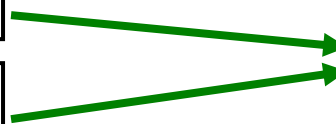
ミシガン大学の投票行動研究

1948年以降の大統領選挙ごとの全国世論調査を実施

政党帰属意識

候補者に関するイメージ
(見た目など)

~~候補者がかけける政策~~



投票

14

14

③経済学モデル（ロチェスター学派）



社会学的な見方の対極として登場・・・存在論的

個人が存在し → 社会が存在する

個人は何らかの効用(utility)をもち
効用を最大化させようとする

効用・・・満足度
企業にとっては利潤

15

15



政治家の効用とは何か？

再選 (reelection)

政治家は再選の確率を最大化させようとする

選挙が近づく → 景気を上げる

他に政治家の効用として考えられるのは

・・・昇進・名声など

16

16



有権者が自民党に投票したという投票行動を説明すると

社会学的アプローチ

→ 田舎に住む人々は保守的だから自民党に投票する

心理学的アプローチ

→ 家族が自民党を支持しているから

経済学的アプローチ

→ 自民党に投票することで自分の効用が高まるから

17

17



④歴史学モデル 経路依存的 (Path dependent)

今の時点の行動を過去の時点の行動から説明する

Time - 1



Time

一旦作られたものを作り変えると訓練しなおさねばならない

t - 1 のときに最も効率的
しかし、t の時点でも最も効率的とは限らない

なぜ、アメリカでは人々は訪問先で帽子やコートをカウチに置かないのか？

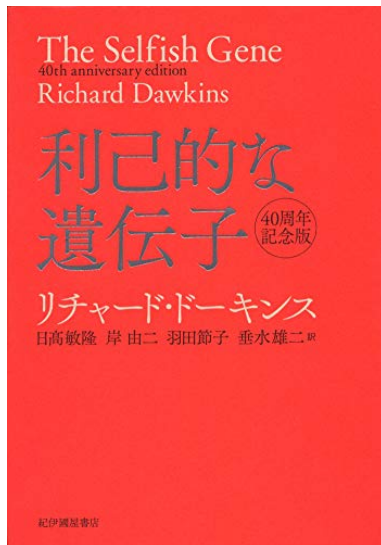
タイプライターの配列は効率的なのか？

18

18



⑤生物学モデル



私たちはなぜ、生き延びようと必死になり、恋をし、争うのか?本書で著者は、動物や人間の社会で見られる、親子間の対立や保護行為、夫婦間の争い、攻撃やなわばり行動などがなぜ進化したかを、遺伝子の視点から解き明かす。自らのコピーを増やすことを最優先にする遺伝子は、いかに生物を操るのか?生物観を根底から揺るがし、科学の世界に地殻変動をもたらした本書は、1976年の初版刊行以来、分野を超えて多大な影響を及ぼし続けている古典的名著である。

19

19



経済学的な考え方

= Downs, Riker, Ordeshook説

$$R = PB - C$$

> 0 → 投票に行く

< 0 → 投票に行かない

B: benefit

自分が投票する候補者が当選することで自分が得られる利益

P: probability: 自分の一票が当落を決定する確率 (0 ~ 1)

C: Cost 投票にかかるコスト

民主主義下ではPの値は限りなく0に近い

20

20



投票のパラドックス

$$R = PB - C < 0 \quad \rightarrow \text{投票に行かない}$$

本来なら民主主義国家では投票率が0になるはず

しかし人々は投票する

なぜか？

21

21



$$R = PB - C + D$$

- $PB - C$ は、おそらく確実にマイナス
- なので「D」項が必要と考えられてきた
- D項については「義務」(duty)という解説がある
- しかし、それでは、同義反復の説明なのでは？
- $D = \text{Democracy?}$

やはり「ただ乗り」問題は残る

22

22



投票のさらなるパラドックス

$$PB - C + D$$

実は、Dも0なのでは？

「自分が投票する必要はないのではないか・・・」

今の政治学の限界

23

23

$$D = PB - C + D$$

接戦である
ほど、投票率
は上がる

2大政党の政策
の違いがそれ
ほどないと認識
されると、投票
率は下がる

棄権すると
罰金を課
す制度

・投票時間の延長
・不在者投票
期日前投票の制度
・電子投票制度？

- モデルの「有権者は投票しない」という予測は、明らかに現実とかけ離れている
- しかし、このモデルはさまざまな実証研究や制度改革への提言に影響を与えた
- 例えば…

24

24



コストの種類

物理的成本

投票所まで移動し投票するまでのコスト

情報コスト

有権者や政党公約など、新聞やネットで調べたりするためのコスト

機会コスト

投票にいかねばほかにできたことをしないことのコスト

25

25



民主主義国でのCの値を小さくするための努力

情報コストを下げる努力

NHKの政見放送

選挙演説カー

選挙ポスター



物理コストを下げる努力

辺鄙な地域で投票所へのバス送迎

費用コストを下げる努力

投票時間を延長する

不在者投票



26

26



P termについて . . .

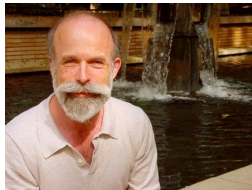
接選であればあるほど投票率が高い

「自分が選挙に行けば政権が変わるんじゃないか . . .」

→ 実際はありえない

「接戦になればなるほど一票の重みが増すというのは . . .
背の高い人の方が低い人よりも月に頭をぶつける可能性が高い
というようなもの」 (Schwartz 1987:118)

Professor Thomas Schwartz (UCLA)



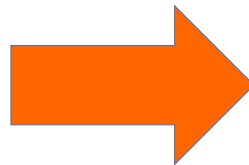
27

27



社会的属性

年齢
人種・民族背景
宗教
職業
所得
教育程度
居住地域
加入団体
etc



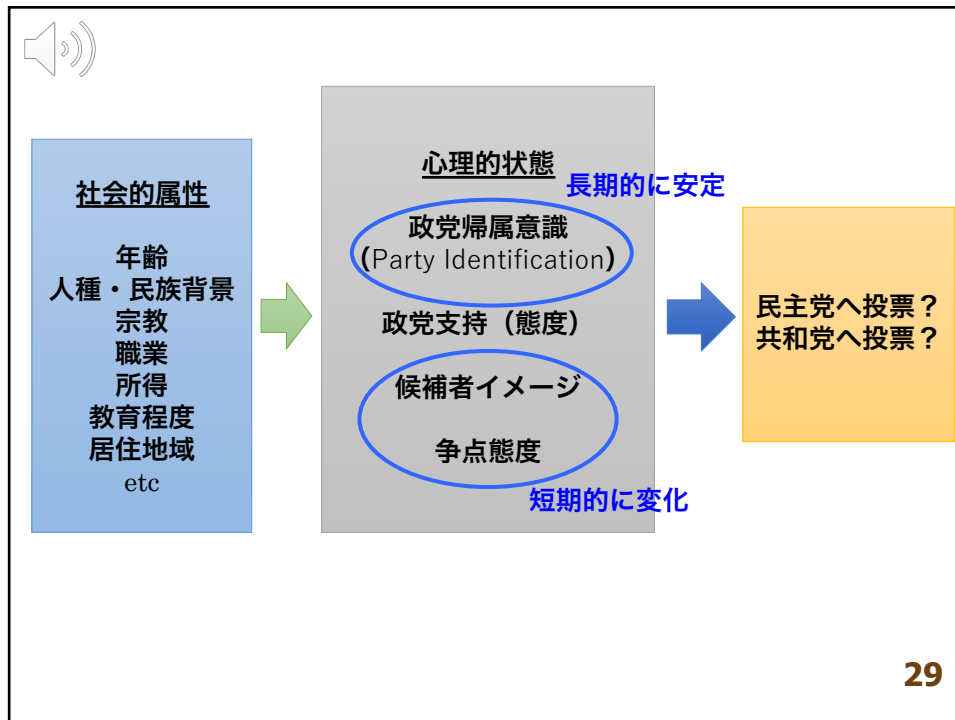
民主党へ投票？
共和党へ投票？

Xさんは、
60歳、
男性、
宮城県に居住、
農業に従事....

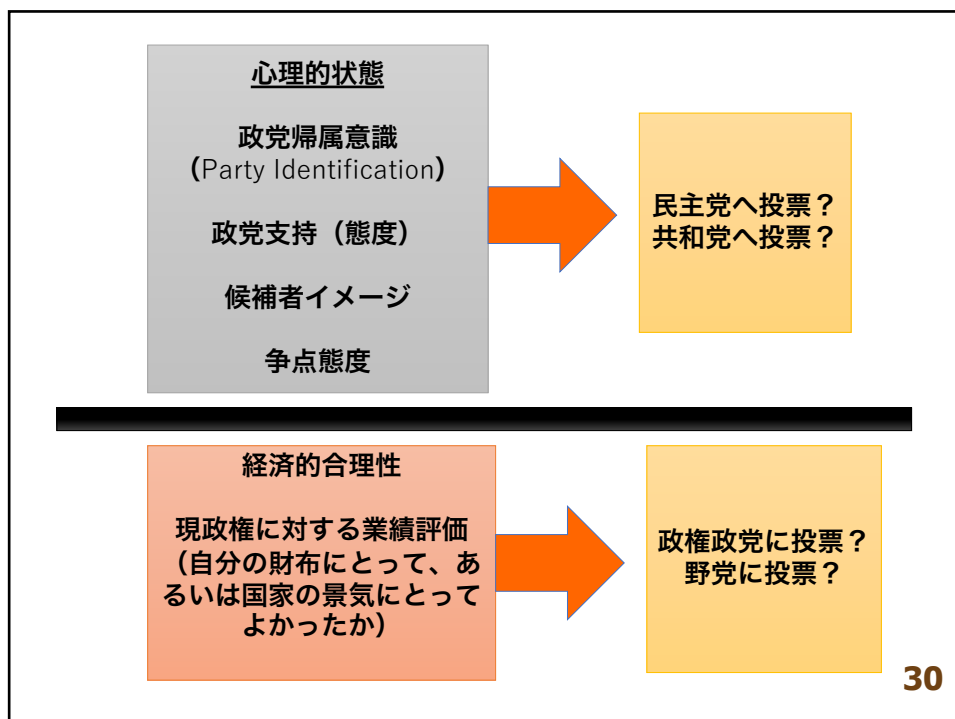
民主や共産ではなく、
自民党に投票

28

28



29



30



4.投票の方向性についての諸理論の問題点

- **社会学モデルの問題点**

- 選挙ごとのスイングを説明できない
- 「なぜ」を説明できてない

- **心理学モデルの問題点**

- 「帰属意識」ならまだしも、「支持」で投票行動を説明するのはトートロジーではないか

- **業績評価投票モデルの問題点**

- 2大政党制を前提としている？

日本における自民党の長期一党優位を有権者の投票行動の結果として説明するとき、三つの理論モデルからはそれぞれどのような説明が可能か？

31

31



平成22年度（2010年度）5月9日施行 特別区職員 I類採用試験

[No.41] ミシガン学派の投票行動研究に関する記述として、妥当なのはどれか。

1. ミシガン学派はマスメディアよりもオピニオン・リーダーを媒介とするパーソナル・コミュニケーションが有権者の投票行動に大きな影響を与えるとした。
2. ミシガン学派は、有権者の社会的属性と投票行動を媒介する心理的要因を重視し、有権者の意識と投票行動の関係を明らかにした。
3. ミシガン学派は、投票行動は政治的先有傾向に従って行われ、社会・経済的地位、宗教・住居地域の三つが大きな要因であるとした。
4. ミシガン学派は、有権者は自己の効用を基準に政党や候補者を合理的に選択するものとして業績投票をモデル化した。
5. ミシガン学派は、オハイオ州エリー郡で一定の対象者集団に繰り返し実施されるパネル式面接調査を行い、S-O-Rモデルに基づき、有権者の投票行動を説明した。

32

32